

埼玉スタジアム周辺の現状と課題

埼玉スタジアム 2002



世界最高水準サッカー専用スタジアム

- アジア最大級・63,700人収容
- ピッチ際でのエキサイティングプレー観戦
- 観客の目線重視、ゆとりある座席配置
- 最高の音響効果と明るい照明
- 2基の大型映像装置によるゴールシーンの再現
- グループでゆったり観戦できるビューボックス

快適そして安全

- 選手・観客・プレス等の動線の完全分離
- 広い通路とわかりやすい避難誘導システム
- 充実したトイレ数(日本最多の1,329個)、快適さを追求した女性トイレ
- メイン・バックスタンドを覆う大屋根
- TVカメラ監視システムによる安全確保

防災機能の充実

- 耐震性に優れた構造
- 備蓄倉庫や浄水機を備えた防災支援機能

みんなにやさしいバリアフリー

- 身障者や高齢者の方々への安全に配慮
- 安全に移動するための各種施設

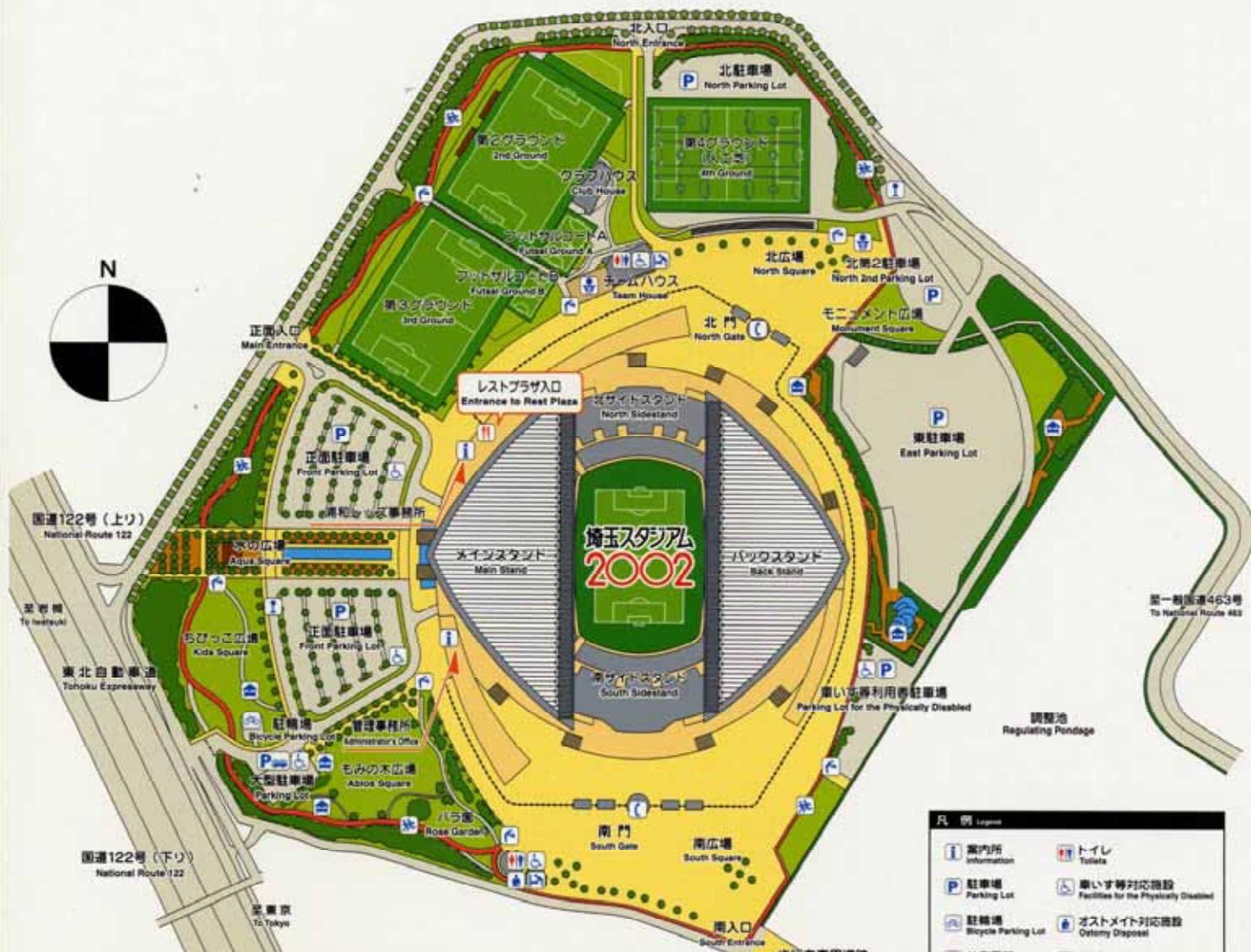
環境にやさしい

- 雨水利用や太陽光発電設備

報道機能の充実

- 様々なアングルのテレビカメラ配置
- 試合の興奮を瞬時に世界に





埼玉スタジアム2002公園

凡例 Legend	
案内所 Information	トイレ Toilet
駐車場 Parking Lot	車いす等対応施設 Facilities for the Physically Disabled
駐輪場 Bicycle Parking Lot	オストメイト対応施設 Ostomy Disposal
公共電話 Telephone	ベビーベッド Baby Change Table
水飲み場 Drinking Fountain	ジョギングコース Jogging Trails
休憩所 Rest Area	レストラン Restaurant
バス停 Bus Stop	バスケットゴール Basketball Goal

概要

約30haの公園は埼玉スタジアム2002を主施設として、サブグラウンド3面、フットサルコート2面のサッカーを中心とした公園です。常に利用できる施設としては、水の広場、ちびっこ広場、もみの木広場を配置し、憩いと安らぎのある公園をめざしています。また、四季折々の花が楽しめるように、外周緑地帯、ジョギングコース沿いには、サクラ(春)とモミジ(秋)などの花木類を配し、低木はアジサイやラベンダー、ミツバツツジなどで彩ります。

施設

サブグラウンド(105m×68m、芝)	2面(競技照明付1面)
サブグラウンド(105m×68m、人工芝)	1面(競技照明付)
フットサルコートA(38m×18m、人工芝)	1面(競技照明付)
フットサルコートB(25m×15m、人工芝)	1面(競技照明付)
緑の広場	1.4ha
水の広場(噴水、流れ)	35m×170m
ジョギングコース	1.8km
休憩舎	4か所
トイレ(屋外トイレ、チームハウス)	2か所
水飲み場	7か所
正面駐車場	500台収容
北駐車場	100台収容
北第2駐車場	40台収容
東駐車場	400台収容
駐輪場	100台収容
*歩行者専用道路(浦和美園駅からスタジアム公園まで)	1.2km
主な植栽/サクラ、モミジ、ミツバツツジ、アジサイ、ラベンダー、ハナショウブ	



埼玉スタジアムスポーツクラブ

スポーツクラブ

第4グラウンド(人工芝)

埼玉スタジアム・スポーツクラブ(会員制)は、県民の皆様が生涯にわたってスポーツを楽しむことができる拠点施設として、また地域コミュニティの醸成を図るために創設されました。

(財)日本サッカー協会が公認した人工芝グラウンド(第4グラウンド)ではクラブが運営するサッカー学校をはじめ、フルサイズ、ハーフサイズ、フットサルなどいろいろな形でサッカーを満喫することが出来ます。また、隣接するクラブハウスではフィットネス、スポーツに関する講座なども開催できるようになっています。埼玉スタジアムはスポーツを「みる」だけでなく、「する」、「まなぶ」ことの感動を提供しています。



クラブハウス

GROUND FUTSAL

第2・第3グラウンド



公園内には良質な天然芝グラウンド2面があり、週末ともなれば、アマチュア大会の決勝戦やサッカー学校など、各世代のサッカー愛好家が集い、ピッチを賑わせています。

第2グラウンドの芝は3種混合の冬芝で、メインスタジアムのピッチと同様の芝を使用しています。第3グラウンドは夏芝で、成長著しいキッズの足に優しい仕様になっています。

公園内北側に位置しているフットサルコート(屋外)はA及びBの2面があり、Aコートは38×18mの国際規格を満たし、Bコートは25×15mの国内標準規格を満たしています。利用率の高い夜間には、500ルクスの照明を備えており、子どもから大人まで各種の大会にも対応できる施設となっています。

フットサルコート



REST PLAZA STADIUM GALLERY



レストプラザ

1Fレストプラザではスタジアム見学ツアー(有料)の受付とともに、スタジアムオリジナルグッズやサッカーグッズの販売も行って公園利用者やフットサル利用者などの憩いの場として利用できるスペースとなっています。



●ストライカー
スタジアムの屋根を特徴的に擬人化したマスクットキャラクター

スタジアムギャラリー

2Fコンコースでは、8つのショーケースで楽しさを演出します。

蹴鞠から始まるサッカーの歴史、地元Jリーグ球団やアマチュアサッカーの活躍の様子を、ユニホームやグッズとともに楽しく紹介します。

また、FIFAワールドカップ™にまつわる品々を国際色豊かに展示します。

さらに一流選手のプレー写真などをグラフィック化し、サッカーの楽しさや興奮を伝えます。



1.建設の基本理念

- 21世紀を担う青少年に夢と希望を与える
- サッカー王国・埼玉をサッカーのメッカにする
- 防災支援機能を備えた都市公園とする

2.スタジアムの概要

- 所在地/埼玉県さいたま市緑区中野田500
- 公園敷地面積/約30ヘクタール

3.施設の特徴

- 最高のプレーを生み出す、サッカー専用スタジアム
- 身障者・高齢者に配慮した施設
- 明確な動線分離と安全性を優先した施設
- 環境にやさしく配慮した施設
- 防災支援施設

4.建物概要

【主要用途】サッカー専用競技場

【階数】地上5階地下1階(一部6階)

【主体構造】

- スタジアム本体
鉄筋コンクリート造
鉄骨鉄筋コンクリート造
- ベデストリアンデッキ
鉄筋コンクリート造

- ピッチ
天然芝張り(地温コントロールシステム)

- 屋根
鉄骨構造:前面キールトラス構造
立体トラスシステム構造
屋根素材/ガラス繊維四フッ化エチレン樹脂コーティング膜(通称:テフロン膜)

【屋根の重さ】

- メインスタンド 2,900t
- バックスタンド 2,600t

【面積概要】

- 建築面積 52,633.49㎡
- 延床面積
スタジアム 60,867.29㎡(客席面積含まず)
ポンペ庫 20㎡
- 客席面積 34,789.70㎡
- フィールド面積 11,228.83㎡
- ベデストリアンデッキ面積

- 18,197.24㎡(水平投影面積)
- 屋根面積 29,027.84㎡(水平投影面積)
- 【主要寸法】
- 高さ
最高高さ 58.074m
(メインスタンド屋根最上部)
- 観客席高さ 40.978m
(メインスタンド観客席最上部)

- 幅(本体)
東西 約226.90m
南北 約229.90m
- フィールド寸法 137.7m×90.6m
- ピッチ寸法 68.0m×105.0m
- ベデストリアンデッキ寸法
外周 約800m
幅 約9mから約18m
- 2階ゲート数 27か所(一般客出入口)
- 観客席数 63,700席
- 防災備蓄倉庫
面積 2,200㎡

5.設備概要

電気設備

【電源設備】

- 本線、予備線の2回線 高圧受電(6.6kV)
- 常用発電機 750kW×2台
機関 ガスエンジン
- 非常用発電機 150kW×1台
機関 ディーゼルエンジン

【競技照明設備】

- 高演色性メタルハライドランプ(ショートアーク、ロングアーク併用)
- 設置場所 屋根庇下(メイン・バック各々2列)に設置
- 照度設定4段切替え
- 灯数/356灯
メイン・バック 各178灯
ショートアーク 152灯
ロングアーク 204灯
- ピッチ水平面照度/2,000ルクス以上
- 停電時の対応/常用発電機による

【大型映像装置】

- 選手紹介・チーム紹介・得点表示・競技時間・案内情報・リプレイ画像等の表示
- 大型映像装置/2基
画面サイズ/縦10m×横20m以上

【音響設備】

- スピーカー分散配置方式
- 屋根下に設置

【昇降機設備】

- エレベーター/11基
メインスタンド側/8基
乗用 5基(車椅子、視覚障害対策仕様)
人荷用 2基(食材、プレス機材等運搬用)
荷物用 1基(ゴミ処理専用)
- バックスタンド側/3基
乗用 2基(車椅子、視覚障害対策仕様)
荷物用 1基(ゴミ処理専用)
- エスカレーター(幅1,200mm)/9基
メインスタンド側の2階から5階まで2か所(各3基)
バックスタンド側の2階から5階まで1か所(3基)
- 小荷物専用エレベーター/1基(厨房用)

【太陽光発電設備】

出力/8.8kW

【防犯監視設備】

- カメラ設置台数 68台
- モニター設置台数 39台

【その他】

- 電話設備 ●非常放送設備 ●テレビ共聴設備
- 防災設備 ●避雷設備 ●中央監視設備

機械設備

【空気調和設備】

- 熱源設備機器
中央熱源系統
鹿熱投入型ガス焚冷温水発生機 2台
(一部常用発電機の鹿熱利用)
- ガス焚真空式温水器 2台
- 熱源水系統(水冷パッケージ)
ガス焚真空式温水器 2台

●空調設備

- 中央ダクト方式
- ファンコイル方式
- パッケージ方式
- その他機器
換気設備、排煙設備
中央監視設備、省エネルギーシステム

【ピッチの地温コントロール】

- 熱源 冷暖房用の冷温水発生器を兼用
- 熱交換機 600,000Kcal/hr
- ヒーター管 20Aポリエチレン管(総延長約40,000m)

【給排水設備】

- 給水設備
給水管150mm(受水槽255㎡)
給水ポンプ 圧力タンク方式
- 再生水利用設備
雨水利用設備/スタジアム屋根部に降った雨水を集水し、トイレの洗浄水、芝敷水及び冷却塔補給水として、有効利用
雨水貯留槽 1,625㎡×2か所

- その他
給湯設備、排水設備、汚水貯留設備、非常時浄水機

【衛生器具設備】

- トイレ数 164か所
- 便器数 1,329個(スタジアム全体)
- 男性用 651個 女性用 552個
- 幼児用 33個 身障者用 25個
- 共用 68個

【その他設備】

- 空気配管設備、ゴミ処理施設、各種水槽設備
- ガス設備(中圧100mm、200mm)、消火設備



SAITAMA STADIUM 2002



●ニーマル マルニー
2002年の数字をピョンピョン跳ね回るウサギボールの耳に見立てたマスコットキャラクター



浦和美園駅からスタジアムへ

歩行者専用道路 (1.2km)・徒歩15分

県内から浦和美園駅までの所要時間

*乗換時間は含みません

電車ルート

- 大宮 ● 20分
- 川越 ● 40分
- 所沢 ● 40分
- 春日部 ● 40分
- 熊谷 ● 40分 (南浦和駅経由・乗換3回)
- 熊谷 ● 50分 (赤羽駅経由)

大宮駅・東京駅までの所要時間

新幹線ルート

- 仙台 ● 120分 (大宮駅)
- 新潟 ● 115分 (大宮駅)
- 名古屋 ● 100分 (東京駅)
- 新大阪 ● 153分 (東京駅)

浦和美園駅までの所要時間

電車ルート

- 東京 ● 46分
- 羽田空港 ● 70分
- 成田空港 ● 100分

羽田空港までの所要時間

飛行機ルート

- 札幌 ● 90分
- 福岡 ● 90分
- 那覇 ● 165分



*Jリーグ等大規模試合時には、浦和駅、東浦和駅、北越谷駅、浦和美園駅(往路のみ)からシャトルバス運行予定。



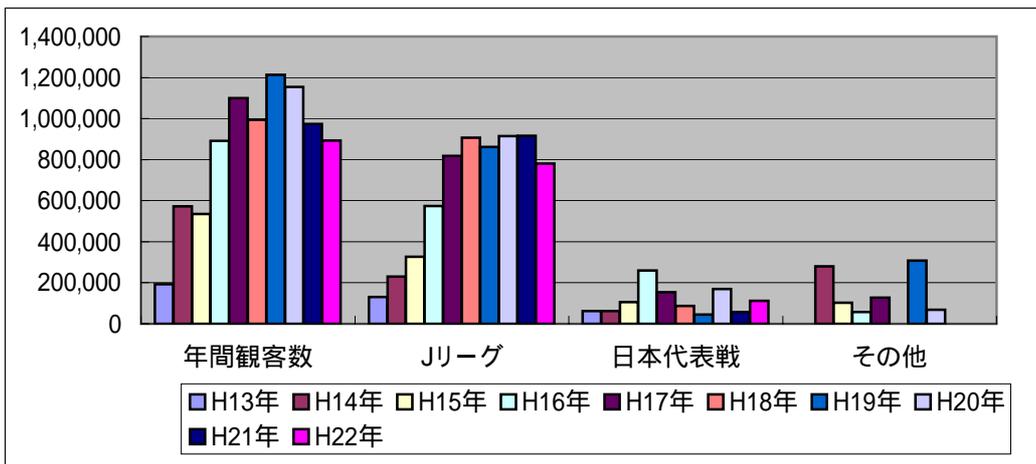
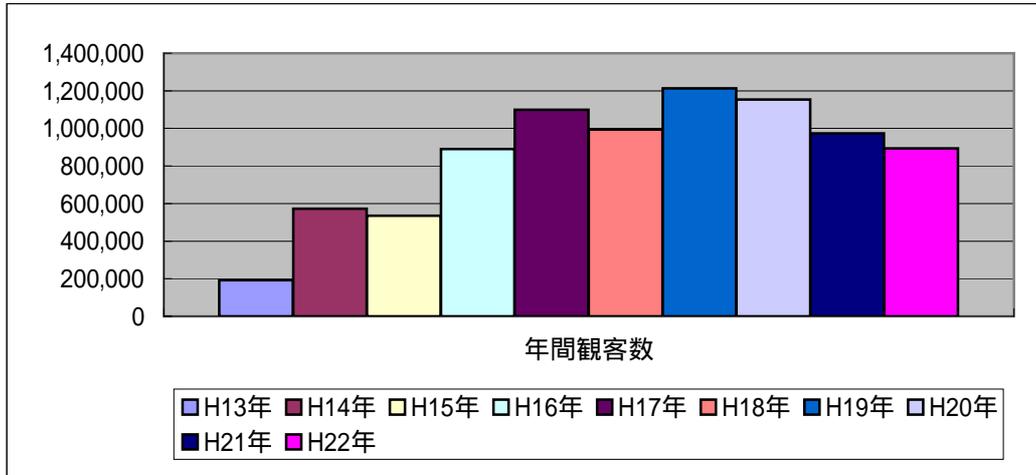
* () は浦和美園駅までのおよその所要時間。乗換時間は含みません。



埼玉スタジアム2002

〒336-0972 埼玉県さいたま市緑区中野田500 ☎048-812-2002 ☎048-812-2500
URL <http://www.stadium2002.com/>

埼玉スタジアム2 2の観客者数



	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	累計
年間観客数	192,557	571,870	534,656	890,718	1,099,866	994,572	1,213,924	1,153,756	973,853	893,267	8,519,039
Jリーグ	130,724	230,340	327,203	573,962	818,601	906,905	861,405	915,224	916,577	780,659	6,461,600
日本代表戦	61,833	61,816	105,036	259,093	153,780	87,667	45,091	169,450	57,276	112,608	1,113,650
その他	0	279,714	102,417	57,663	127,485	0	307,428	69,082			943,789

(・埼玉県資料をグラフ化)

平成 23 年度
「埼玉スタジアム 2002 公園」事業計画

財団法人 埼玉県公園緑地協会

施設の基本的な運営方針

1. 指定管理業務を行うに当たっての基本的方針

私たち、(財)埼玉県公園緑地協会は、指定管理者への決意のもと、埼玉スタジアム2002公園に求められる役割を踏まえ、公園施設の機能、特性を十分理解し、公園管理を効果的かつ効率的に行い、利用者へのサービスを向上します。

埼玉スタジアム2002公園が、日本と韓国が共同開催した2002年ワールドカップサッカー大会を機に開園して以来、私たちは、本公園を『21世紀を担う青少年に夢と希望を与える。

サッカー王国・埼玉を、サッカーのメッカにする。防災支援機能を備えた公園とする。』との3つの建設理念の実現を目指して運営してきました。特に、サッカーのメッカ埼玉として、県民の皆さまにハイレベルな試合の観戦機会を提供する取組を重視し、日本代表戦の誘致に実績を上げてまいりました。

今後も、次の基本方針のもと、日本代表戦の誘致に積極的に取り組み、サッカーの夢と感動を発信するとともに、埼玉県との連携を密に公平公正なサービスを提供し、県民の皆さまが、快適・安心・安全に利用していただけるように、「お客様第一の精神」で心をこめて管理運営施策に取り組みます(利用者満足度の向上)。

埼玉スタジアム2002公園における指定管理者の基本的な方針

1. 感動を生む劇場型サッカー観戦スタジアムを目指します。
2. サッカーを主軸とするスポーツ振興とにぎわいを創出します。
3. 地域と連携し、常に人々が集い交流し賑わう公園づくりを進めます。
4. 日本を代表するスタジアムの知名度と施設を活かした事業展開を図ります。
5. 防災支援機能を備えた安心・安全な公園を実現します。

サッカーの夢と感動を伝える
快適・安全サッカーパーク

(1) 埼玉スタジアム2002公園における基本的な方針と主な施策・事業

1) 感動を生む劇場型サッカー観戦スタジアムを目指します。

《主な施策・事業》

スタジアム開場10周年記念事業を実施するとともに、「埼玉」の情報発信とPRを進めます。

2014年FIFAワールドカップブラジル大会を目指す日本代表を応援し、日本代表戦の誘致に取り組めます。

チームカラーに合わせたライトアップやバナー装飾など、試合前からサッカーの感動を演出する取り組みを実施します。

稼働率を上げながらも、国際試合やJリーグなど高水準のプレーにふさわしい良質なピッチを維持します。

公園の暑熱対策など観客、選手、サッカー関係者に快適な施設の改善に取り組めます。

「埼玉スタならばまた来たい」と思われるような魅力的な飲食等売店群を構築します。

2) サッカーを主軸としたスポーツ振興とにぎわいを創出します。

《主な施策・事業》

年長の幼児から中学生までを対象としたサッカースクールを開催し、サッカーの楽しさを伝え、スキルアップを図ります。

民間企業等との連携により、サッカー部等選手に対するクリニックを実施します。

試合参加機会が不足している子供たちのために夏休みなどに「埼玉スタジアム草サッカーサークル」を実施します。

県内サッカー指導者のレベルアップのため、有料クリニックを開催します。

「埼玉スタ・ドリームサッカー」や「埼玉スタカップ」フットサル大会の開催など、県民の皆さまに埼玉スタジアム2002公園をご利用いただき、埼玉県のスポートの振興を推進します。

3) 地域と連携し、常に人々が集い交流し賑わう公園づくりを進めます。

《主な施策・事業》

地域の関係事業者と連携して実施する夏祭りの内容を充実し継続して開催します。

新たな公園利用者創出に向けスタジアムの魅力を伝える「みんなのサイスタキャンペーン」を展開します。

県と連携して学校緑化事業の推進などからニーズの高い芝の維持管理に対する技術支援を積極的に実施します。

サポーター、周辺地域のボランティアと連携し、四季を通じた花と緑の環境を提供するとともに、22年度に実施した「埼玉スタジアム2002公園魅力アップ」推進事業の草花を維持します。

草花や花木の開花情報をホームページでビジュアルに伝えます。

利用者に対するスタッフ挨拶、さわやかで安心して利用できるトイレ、コバトンの活用、分かりやすいサイン整備など利用者の満足度を高める取組を進めます。

4) 日本を代表するスタジアムの知名度と施設を活かした事業展開を図ります。

《主な施策・事業》

スタジアム開場10周年を記念しサッカー資料展示をリニューアルします。

県との密接な連携のもと施設を有効活用し、スタジアムに親子で宿泊するキャンプ@サイスタなど「県民を明るくする！楽しくする！元気にする！」事業を実施します。

スタジアム内をツアーアテンダントが案内するスタジアムツアーの魅力をアップします。

会食などに利用可能なビューボックスのサッカー開催日以外の有効活用を図ります。

特色のあるオリジナル商品の開発、売店の魅力アップにより売店事業の充実を図ります。

5) 防災支援機能を備えた安心・安全な公園を実現します。

《主な施策・事業》

関係機関と連携した防災訓練の実施を通じ、災害時に迅速な対応のとれる危機管理体制を確保します。

職員による日常巡回、制服警備員による日中、夜間の巡回を実施するとともに、防犯カメラにより24時間体制の監視を実施するなど、利用者の安心・安全を確保します。

公園施設の破損が見つかった場合は、利用者の安全確保を図るとともに、小破修繕については、早期に対応することに加え、見通しの確保や置き引きへの注意を喚起する広報など防犯対策に力を注ぎます。

(2) 地域の共有財産である公園を、住民、行政とともに育てていく取組

公園を共に育てていくためには、公園利用者や地元自治体、周辺の自治会や企業、学校などは、欠くことのできないパートナーと考えています。

様々な立場の人達が公園で行動を共にすることにより、来園者の満足度を高めるとともに、公園をフィールドとしたコミュニケーションを活発にしていきたいと思います。

公園を、住民、行政とともに育てていく主な取組は次のとおりです。

1) 公共、公益施設との連携

本公園の主要施設である埼玉スタジアム2002は、6万人を越える観客席を備えていることから、埼玉高速鉄道、国際興業バス、タクシーといった公共交通機関と調整し、利用者のサービス向上や安心・安全の確保に主催者と連携して取り組みます。

また、公園区域内には、河川管理施設である調節池の工事が施工されていることから、河川管理者である埼玉県や施工業者と、利用者の安全確保や利便性の確保のため必要な調整・連携を図ります。

さらに、本公園の周辺では、大規模な土地区画整理事業が施行されていることから、施行者である独立行政法人都市再生機構との調整・連携を図り、来園者のアクセスと安心・安全の確保を図ります。

2) 関係団体との連携

これまで私たちが築いてきた日本サッカー協会との信頼関係をもとに、日本代表戦の誘致に取り組みます。また、埼玉県サッカー協会をはじめ、浦和レッズや大宮アルディージャなど、関係団体と連携を密にして、大規模サッカーイベントの誘致や施設の有効活用に努めます。

3) 地域のボランティア団体・学校・企業との連携

地域の関係事業者や地域住民と協働で夏まつりを開催します。

また、埼玉スタジアム2002公園を応援してくれる周辺地域のボランティア及びJリーグチームのサポーターと連携し、園内の花壇の植え付け、清掃活動など、四季を通じた花と緑の環境が楽しめるような公園を提供し、公園利用者の満足度を向上させます。

今後も、これらの団体と連携し、必要な情報を集め、蓄積するとともに、更なる地域連携の実現に向け検討をすすめます。

4) 防災施設としての連携

本公園は、災害発生時に防災施設として有効に機能するよう、関係機関や地域と連携して、災害に備えた訓練を引き続き実施するとともに、浄水装置、非常用電源、備蓄倉庫などの防災施設の点検を行い、非常時の即時対応に備えます。

管理執行体制

(4) 開設期間

埼玉スタジアム 2002 公園の各施設の平成23年度開設期間を23年4月1日～24年3月31日とし、月曜日を休園日とします。ただし、月曜日でも第4グラウンドとフットサルコートの貸し出しは行います。

(5) 供用時間

埼玉スタジアム 2002 公園の各施設の供用時間は、9:00から21:00まで（フットサルコート・第4グラウンドは9:00から24:00まで、駐車場・広場は7:00から21:00（5月1日から8月31日の期間は6:00から21:00）まで）を基本とします。

2. 利用者サービス事業計画

1. 感動を生む劇場型サッカー観戦スタジアムを目指します。

アジア最大級の収容能力と世界最高水準の施設を有するサッカー専用スタジアムの能力を最大限に発揮し、エキサイティングで安全、快適な「劇場型サッカー観戦スタジアム」を実現します。サッカーのメッカ埼玉として、県民の皆さまにハイレベルな試合の観戦機会を提供する取組を重視し、日本代表戦の誘致に取り組みます。子供たちをはじめ県民に夢を与え、世界にサッカー王国・埼玉を発信します。

(1) 日本代表戦等の誘致

日本サッカー協会との密接な信頼関係を最大限に活用し、日本代表戦の誘致をすすめます。

また、浦和レッズや大宮アルディージャのJリーグ、代表戦の他、国際試合や、なでしこリーグ、全国レベルのアマチュア戦など魅力あるハイレベルな試合の誘致にも取り組んでまいります。

(2) 感動を支える取組

1) サッカーの感動を演出する取組

関係団体やメディアと連携して2014年FIFAワールドカップブラジル大会を目指す日本代表を応援する取組を展開します。また、スタジアム全体を、日本代表戦では代表カラーの青で、浦和レッズ戦では、チームカラーの赤で染めるライトアップやチームに合わせたバナー装飾など試合開始前からサッカーの感動を演出する取組を実施します。

2) ベストピッチへの取組

高い技術と豊富な経験を持つグラウンドキーパーを中心に維持管理を行い、選手の能力を最大限に引き出す、クオリティ、美しさを兼ね備えた天然芝を維持します。

3) 最高レベルの利用環境を提供する取組

公園の暑熱対策施設など、費用対効果を踏まえて、県実施の施設改修にとどまらず、県と調整の上、観客、選手、サッカー関係者など利用者にとって快適、安全な施設の改善に向け検討してまいります。

4) 魅力的なサッカー観戦環境の創出

試合開催時の飲食、グッズ販売等について、主催者とともに、お客様に「埼玉を発信」し、「埼玉をお持ち帰りいただく」発想でホスピタリティを向上し、「埼玉ならばまた来たい」と思われるような魅力的な飲食等売店群を構築します。

(3) 10周年記念事業の実施

埼玉県をはじめとする関係団体との協議によりサッカーのメッカ埼玉にふさわしい10周年記念事業を実施します。

(4) エコ・スタジアムプラン

主催者の協力を得て、スタジアムで大量に消費される紙コップをトイレトペーパーにリサイクルする取組、電気自動車の導入や省エネ対策の推進など「エコ・スタジアム」を積極的にアピールしてまいります。

(5) パブリックビューイングの実施

主催者等と連携し、日本代表戦や優勝のかかったJリーグ戦などを現地で応援することができないサッカーファンのニーズに応え、大型映像装置を利用することによりパブリックビューイングを実施します。

(6) 広報活動の積極的な展開

1) ホームページやパブリシティの積極的活用

ホームページでは、Jリーグなどのサッカー情報やその他のイベント、公園での緑や開花の情報などをタイムリーに情報発信します。その他、ホームページ上でサッカー観戦の座席を検索するサービスやグラウンド・コートの予約など、利用者の立場に立ったサービスを提供します。

また、新聞、ラジオや「彩の国だより」をはじめとする地域の情報紙などに企画やイベントの情報をとりあげてもらえるよう、積極的なパブリシティに努めます。

2) パンフレットやリーフレットの作成・配布(拡充)

埼玉スタジアム2002公園の概要、利用方法、座席・トイレ・売店・階段・通路の位置等の情報を盛り込んだパンフレットやリーフレットを用意し、サッカー観戦者や公園利用者の利便性向上を図るとともに、スタジアムの魅力を伝えます。また、「みんなのサイスタ」キャンペーンにあわせた利用促進リーフレットや会食などに利用可能なビューボックスを紹介するリーフレットなど、目的やタイミングにあわせたパンフレット等を作成します。

3) 公園機関誌の配布

協会では、公園での季節の行事や、開催イベントの内容を掲載した公園機関誌「PARKS」を年3回(各約2万部)発行し、教育機関や駅、公民館等での広報を行います。この「PARKS」においても埼玉スタジアム2002公園に関する情報を積極的に発信します。また、スタジアムの取り組みをPRする「サイスタプレス」を発行します。

4) 園内掲示の充実

サッカー情報やイベント、開花の情報、公園の利用方法等について、最新の情報を提供できるように、園内掲示の活用を行います。また、必要に応じて掲示板を新設します。

2. サッカーを主軸としたスポーツの振興を図ります。

(1) 埼玉スタジアムスポーツクラブの運営と教育普及活動の実施

1) サッカースクールの運営(通年)

年長の幼児から中学生までを対象としたサッカースクールを開催し、サッカーの楽しみに触れながら、基礎運動能力とサッカースキルの向上を図ります。また、特別クラスや女子クラスの新設など利用者のニーズをふまえた事業を展開してまいります。

2) 本県サッカーレベル向上のためのサッカー部等活動への支援(通年)

サッカーレベル向上のために最も重要な世代でありながら、指導環境が整っていないサッカー部等活動を支援するため、民間企業等との連携により、クリニックを実施し、埼玉県サッカーのレベルアップを図ります。

3) フットサルスクール等の開催

初心者でも楽しめるレディース・フットサル教室などサッカースポーツの拠点にふさわしい事業を実施します。

4) サッカーの教育普及活動の実施(通年)

女子を対象とした無料のサッカークリニックなど、積極的なサッカーの教育普及活動を実施します。

5) 子供たちのサッカー試合参加機会の拡大

団体競技のため試合参加機会が不足している子供たちのために、個人でも気軽に試合参加ができるよう、小学校高学年を対象とした個人参加型の「埼玉スタジアム草サッカーサークル」を夏休みなどに複数回開催します。

6) サッカー指導者への支援

県内サッカー指導者のレベルアップのため、埼玉県サッカー協会と協働でクリニックを開催します。

7) WEB 予約・スポーツクラブ会員管理システムの維持管理

引き続き、埼玉スタジアム2002公園 WEB 予約・スポーツクラブ会員管理システムの適正な維持管理を行います。

(2) スポーツの振興を推進する公益事業の実施

1) 「埼玉スタ・ドリームサッカー」の開催

年間12回程度、一般公募により、「埼玉スタ・ドリームサッカー」を開催し、メインピッチ、第2、第3グラウンドでプレーするチャンスを提供します。天然芝ピッチのサッカーを体感していただくことにより、サッカーの楽しさ、感動とともにスタジアムへの愛着を高めます。

2) 「埼玉スタカップ」フットサル大会の開催(年2回)

各世代、レベルごとのカテゴリーに分け、フットサル大会を開催し、フットサル利用者の拡大を図ります。

3) サッカー協会などと連携したイベント展開(通年)

幼稚園から社会人まで、各世代のさまざまな大会などの魅力あるサッカーイベントを支援し、埼玉県サッカーの活性化に貢献します。

3. 地域と連携し、常に人が集い交流し賑わう公園づくりを進めます。

公園内にはJリーグチームのサポーターと地域住民の方が作った桜草の花壇があります。この公園では人々が憩うだけでなく、様々な交流が生まれます。それは“スタジアムのある公園”だからこそです。県民の皆さんに自分たちの「ホーム(我が家)」と感じていただけるような公園を目指します。

(1) 地域の核となる施設としての公益事業の実施

1) 地域と連携した夏まつりの開催(8月)(拡充)

地域の関係事業者や地域住民と協働で夏まつりを開催し、より一層の内容充実を図ります。

2) シーズンスペシャルイベント(通年)

ゴールデンウィーク、県民の日及び夏休み等に子どもから大人までがワクワク楽しむことができるイベントを開催します。

(2) 新たな公園利用者創出に向けたキャンペーンの実施

Jリーグなどのプロサッカー試合が開催される場所、という印象が強い埼玉スタジアム2002公園ですが、試合のない日も、人それぞれの様々な楽しみ方ができる身近で魅力的な公園であることをPRするため「みんなのサイスタキャンペーン」を展開します。このキャンペーンでは統一ロゴマークを作成し、記者発表はじめ自治会や埼玉高速鉄道各駅へのポスター掲示、浦和

レッズ広報媒体への露出などにより多角的に公園としての魅力やスタジアムツアー、サッカースクールなどの事業を広く県民の皆さんにPRします。これにより、これまでサッカーに興味がなかった人たちや提供しているサービスを知らない人たちを新たな公園利用者として呼び込みます。

(3) 芝管理技術の更なる研究

将来にわたってベストピッチを維持するため、職員の育成により芝管理技術の継承をすすめるとともに、今後必要になる芝張り替えの研究など更なる芝管理技術の向上に取り組みます。

(4) 四季を通じた花と緑環境の整備

1) みどりと川の再生(通年)

埼玉県が推進している「みどりと川の再生」の取組への連携の一環として、学校緑化事業の推進などニーズの高い芝の維持管理に対する技術支援を積極的に実施します。県と連携して学校関係者や公共施設など芝管理に携わる希望者に対してアドバイスを実施するなど、芝管理技術の社会還元を進めます。

2) ボランティア団体等と連携した花いっぱい公園づくり(通年・拡充)

埼玉スタジアム2002公園を応援してくれる周辺地域のボランティア及び「リーグチームサポーター」と連携し、園内の花壇の植え付け、除草、植え替え等の作業を行い、四季折々に季節の花があふれるような公園を提供します。また、22年度に実施した「埼玉スタジアム2002公園魅力アップ」推進事業で植えられた草花を適切に管理し、拡大します。

3) ホームページの活用(通年)

ホームページ等で公園内にある草花や花木の開花情報や紅葉情報などをビジュアルに伝え、自然を楽しめる場所としてアピールします。

(5) 利用者満足度を高める事業展開

1) アンケート調査の実施などによる利用者満足度向上

大規模なイベントなどに合わせて、アンケート調査を実施します。また、日常の巡回やホームページ等を通じて利用者のニーズの把握に努めるとともに、園内、スタジアム内にご意見箱を設置し、利用者の声を収集します。

利用者のご意見を踏まえ、公園施設の機能を高める施策を進め、利用者満足度を高めます。

2) 「スタッフあいさつ」プロジェクト

公園管理にあたるすべてのスタッフは、来園者に対して「こんにちは」、「ありがとうございます」といった明るいあいさつを行います。また、来園者にとって身近なスタッフ、安心・信頼できるスタッフになるため、声掛けに心がけ、来園者が心地よく公園を利用できることを目指します。

3) 「さわやか安心トイレ」プロジェクト

園内のトイレは、いつでもきれいに使えるトイレにするとともに、「きれいに使っていただきありがとうございます」のサインや男子トイレの「一歩前」サイン等の掲示等、利用者に清潔で安心感を与えるトイレにします。

また、安らぎを与える空間の演出や、見通しの良い明るいトイレにするなど、いつでもさわやかで安心して利用できる「さわやか安心トイレ」プロジェクトを引き続き推進しています。

4) 「コバトン活用」プロジェクト

公園への親しみを増していただくとともに、埼玉県の県営公園であることを利用者にイメージしていただくために、公園の掲示物などに埼玉県のイメージマスコットであるコバトンを活用していきます。

5) 「分かりやすいサイン整備」プロジェクト

グラウンド、レストプラザ、駐車場、花壇などを示した方向案内、公園のイベント情報、樹木名板など、利用者が園内を分かりやすく、そして楽しく利用できるように、サイン等の一層の整備を行います。

また、公園からのバスの時刻表やバス停位置、タクシー会社の電話番号などのアクセス案内や、近隣施設の案内などの情報は的確に提供します。

さらに、バスの時刻表のコピーや周辺地図などを用意して、利用者へすぐに提供できるようにします。

4. 日本を代表するスタジアムの知名度と施設を活かした事業展開を図ります。

(1) 10周年記念事業資料展示

埼玉県と協力し、スタジアム開場10周年を記念してサッカー資料展示をリニューアルします。

(2) 県民を明るくする！楽しくする！元気にする！取組

県との密接な連携のもと施設を有効活用し、スタジアムに親子で宿泊するキャンプ@サイスタなど「県民を明るくする！楽しくする！元気にする！」事業を実施します。

(3) スタジアムツアーの魅力アップ

選手が使用するロッカールームやウォーミングアップルームなどをツアーアテンダントが紹介してご好評をいただいているスタジアムツアーを、特別ツアーやスタジアムの展示を工夫するなど、魅力をアップします。

(4) スタジアムを活用したイベントの誘致

スタジアムを利用して新たなイベントを誘致するため、首都圏の企業やイベント会社に営業活動を実施します。また、会食などに利用可能なビューボックスのサッカー開催日以外の有効活用を図ります。

(5) オリジナル商品の開発など売店事業の充実（拡充）

公園利用者の利便性の向上と、管理運営費の財源とするために、収益事業を行い、県の公園管理に係る委託料の削減に努めます。

また、利用者の声を聴きながら、事業改善を図り、スタジアムならではの特色あるオリジナル商品の開発、ホスピタリティを向上し、「埼玉ならばまた来たい」と思われるような魅力的な飲食等売店群の構築により売店事業の充実をすすめます。

事業名	事業概要
レストプラザ販売	レストプラザにおいて、飲食のサービスを提供するとともに、スタジアムオリジナルグッズやサッカー関連グッズ等を開発・販売します。
イベントサポート 飲食販売	Jリーグ等の開催日では、場内の臨時売店で、飲食のサービスを提供します。 販売品目も、季節や利用者ニーズに応えるよう常に見直しを行います。

<p>移動売店の設置 (ケータリングサービス)</p>	<p>Jリーグ・日本代表戦などイベント等の開催日には、公園内の各広場において、ケータリングカーによる屋台村を設け、観客など来園者のフードサポートを行います。</p>
<p>自動販売機</p>	<p>自動販売機を園内に設置し、利用者ニーズに応えます。</p>

(6) 施設を活かした事業の実施

1) 広告看板事業(通年)

メインスタンドにサッカー場にふさわしい広告看板を設置し、広告収入を管理費に充てることにより、県からの管理委託料を削減します。また、コンコースなど新規スペースについて検討を進め収入の安定化に努めます。

2) ロケーションスポット事業(通年)

スタジアムと緑が織りなす素晴らしい都市景観をロケーションスポットとしてPRし、映画、テレビドラマ、コマーシャルの撮影などに活用します。

3) 広場・駐車場でのイベント(通年)

広場や駐車場など公園施設を活用することにより、イベントや展示会を誘致し、人々の交流と賑わいを創出します。

4) オリジナルグッズの販売(通年)

埼玉スタジアム2002公園の特色あるオリジナルグッズの開発を進め、スタジアムを訪れた皆さまに記念品として販売します。

5) 埼玉スタ・ウェディング(通年)

サポーターやスタジアムを愛する皆さまのニーズに応え、数々の感動と興奮の舞台となったスタジアムのメインピッチを結婚式の場として活用します。

6) メモリアルフォト(通年)

スタジアムのメインピッチ上やロッカールームなどスタジアムならではの場所で七五三や成人式、誕生日や結婚記念日などの記念写真を撮影します。

5. 防災支援機能を備えた安心・安全な公園を維持します。

(1) 県や地域と連携した防災訓練の実施

本公園は、地震等の災害時における防災活動拠点として埼玉県が指定しており、園内には、浄水装置、非常用電源、備蓄倉庫などの防災施設機能を備えています。関係機関と連携した防災訓練の実施を通じ、災害時に迅速な対応のとれる危機管理体制の確保に万全を期します。

(2) 危機管理対応職員の配置と制服警備員による巡回や機械警備

1) 危機管理体制の充実

多くの利用者に安心して、楽しんで頂けるよう、夜間を除き土、日曜日や祝日も、常勤職員を管理事務所に配置し、危機管理体制を確保します。

2) 巡回や警備体制の強化

職員による日常巡回、制服警備員による日中、夜間の巡回を実施するとともに、防犯カメラにより24時間体制の監視を実施します。

巡回時には、ホームレスの定着に十分注意しながら巡回を実施し、引き続きホームレスのない明るい公園を提供します。

3) 傷病者に対する適切な対応

所轄消防署との通報連絡体制を密にするほか、職員が計画的に救命講習を受講し、来園・来場者に傷病者が発生したときに適切な初期手当ができる体制を確保します。

(3) 公園施設の日常点検の徹底と事故の未然防止

1) 日常点検の徹底

埼玉スタジアム2002をはじめ、園路・ジョギングコース、芝生広場、運動施設、便益施設などの公園施設について、日常点検を徹底し、利用者の安心安全を確保します。

2) 事故の未然防止

公園内に危険箇所が発見された場合は、直ちに立ち入り禁止措置を行い、利用者の事故防止を行います。

広大な緑地公園の特性から広場の近くでは、例年利用者に危害を加える恐れのあるスズメバチの営巣を確認しています。発見の都度看板等で利用者に周知して早期に駆除し、被害の未然防止を図ります。

(4) 利用者の安全を確保するための早期修繕の実施

職員による巡回や利用者からの連絡などで、公園施設の破損が見つかった場合は、利用者の安全確保を図るとともに、小破修繕については、早期に対応します。

(5) 防犯に配慮した公園管理の推進

園内の樹木の剪定などを積極的に行うなど見通しの確保に配慮するとともに、トイレの明るさの確保や、駐車場での置き引きを注意喚起する広報など、防犯対策に力を注ぎます。

6. 施設の利用見込み

(1) 利用人数

施設名	利用見込み	備考
有料施設利用人数	130万人	

(2) 大規模試合数

大規模試合	開催見込み	備考
日本代表戦	2試合	
浦和レッズ戦	17試合	
天皇杯	1試合	
ナビスコカップ	3試合	
合計	23試合	